Ⅰ　調査の概要

1　調査の概要

⑴　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査対象（公立学校）

区分／学年	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）		
	国	広島県	広島市	国	広島県	広島市
小学校第６学年	18,289	440	※139	936,576	22,134	9,852
中学校第３学年	9,291	234	64	871,097	20,134	8,721

※　該当児童の在籍がない学校…小学校１校　　（広島県・広島市は、国・広島県の内数である。）

3　調査期日

令和７年４月１７日（木）

4　調査内容

⑴　児童生徒に対する調査

ア　教科に関する調査

（ア）　対象教科　小学校第６学年：国語・算数・理科　　中学校第３学年：国語・数学・理科
（理科は３年に一度程度実施、前回は令和４年度に実施）

（イ）　出題範囲　原則、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（ウ）　出題内容

a　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

b　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（エ）　出題方法

上記ａとｂを一体的に問うこととし、小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。中学校理科は生徒が活用するICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるCBT方式で実施する。

イ　質問調査

（ア）　対象　　小学校第６学年及び中学校第３学年の児童生徒

（イ）　内容　　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する事項

⑵　学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5　語句の説明

語　句	説　明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○国語、算数・数学、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
IRT	項目反応理論 児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。
IRTスコア	IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均500点を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。
IRTバンド	IRTスコアを１～５の５段階に区切ったもので、平均バンドは３、５が最も高いバンドとなる。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均３を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。